

当事者の声



ひなまつり 濱田茂雄

あかりをつけましょ  
ぼんぼりに  
ふ

**障害年金の研修会に参加** 木内 武  
先生の話はとても理解しやすかった。厚生年金の300ヵ月のみなし計算の事は知らなかったことです。他にも色々勉強になり、次回の年金の診断書提出に際して活かしていこうと感じました。出来れば、その時点では就労出来ていて収入があまり多くなくても、厚生年金分が支給できればいいな

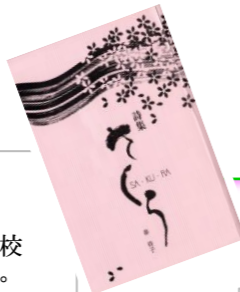
お母さんの帽子  
お母さんの帽子は毛糸の帽子  
冬に雪をかきをする時  
母は帽子をかぶる  
薄茶色のその帽子をかぶると  
頭がちつちつとくたかぶると  
頭を全部かくしてしまおう  
大きなシャベルをもって  
雪かき終わったらでっ  
笑うんです

私の母は  
この帽子のよう  
私をすくってくれるんです

お母さんサイクリング  
母にさそわれて  
久しぶりのサイクリング  
春風はまだ冷たく  
なごり雪が舞っていた

母の背中が力強く見えた時  
私は少し安心した

吹雪の中でも  
生きて来た母の姿  
遅れじとペダルに力を入れた



作者 人生の舞台は篠山市でした。

太郎のマンガ



詩集 さくら／春 待子 (はる まちこ) から転載  
本名・酒井 田美子 (1960~2003)  
小学校一年生の頃から絵日記を描きはじめ、中学・高校と詩に熱中、才能を発揮。惜しくも享年40歳で他界。

編集後記

去年6月に報道された、統合失調症治療薬「ゼプリオン」の「薬害」(2013年発売から2年3か月間の国への副作用報告を分析した、NPO法人「地域精神保健福祉機構」〈コンボ〉が、それを使用した85人死亡と発表、使用患者の全例調査を厚生省に要求)から、私は兵家連を通じて全福連(みんなねつと)へ善処方を求めたが、その製薬会社ヤンセンファーマに届いたという回答が返ってきた。同社による弁解じみた記事はネットで見られる。「薬害」の加害者の主張はあっても、被害者と家族のそれはない。  
2002年新治療薬「オランザピン」(商品名ジブレキサ)による2人死亡事故に際し、厚生省の製薬会社・医療機関への素早い管理指導と比べて、今回はなぜ今になってその措置の報道がないのだろうか。向精神薬を常用せざるを得ない当事者(社会の中の少数者でも)に寄り添った、何より命を大切に行政・ジャーナリズム・社会を願ってやみません。(伊東)

春 待子さんの詩集から今回も転載させていただいた。母を詠んだ詩があれば、詩集に1首だけある父の詩も、と並べてみたが、雪かき、なごり雪と母を詠った2首に変更した。今年は、県北中部の雪の報道が多い。父の詩と数ある母の詩は、後の機会に紹介させていた

当事者の生活保障は? ~障害年金の現状と課題~

理事長 伊東久雄

はじめに  
誰でも病・障害などのリスクある人生、日本で生涯に5人に一人が精神疾患を患うといわれる(厚生省公表~青木先生講演から)。精神障害者の障害年金について少しでも理解して下されば幸いです。

日本福祉大学青木教授の講演 2016年12月研修会・約80人参加

兵家連主催北播磨・丹波地区の精神保健福祉研修会が、ほのぼの会担当、やすらぎ工房職員協力で「精神障害者の生活保障の今とこれから~障害年金の現状と課題を中心に~」をテーマとして、日本福祉大青木聖久教授の講演を柱に、三木市立教育センターで開催された。三木の風グループ「グルーポビエント」の軽やかな演奏アトラクションから始まり、兵家連副会長・南部氏、三木市障害福祉課長・藤田氏の挨拶の後、講師からプロジェクターを使用して、障害年金の全体像についての深くてわかりやすい、1時間の講演が行われた。その要点は「神戸新聞」(17.12.17)記事(青木先生は記事中の「働いて止まることはない」⇒「働いたことによって、必ず止まるとは限らない」と説明しています)に書

《実態例》など

- \* 精神障害者の収入は極めて低く、医療費の特別な出費が増大する。
- \* 受給の実態—精神障害者は日本では約323万人いるが(2008年)、障害年金受給者は推定52万人です。
- \* 障害基礎年金の新規裁定請求の審査結果に最大6倍の格差~不支給割合(=不支給件数÷決定件数)全国12.5%、兵庫県22.4%[H22~H24年度]、支給停止割合(=支給停止件数÷確認届送付件数)全国2.43%、兵庫県8.52% ⇒2016年9月よりガイドライン実施~ 医師向け診断書の留意事項~更新時の情報収集の際、日常の生きづらさが当たり前になっていることを客観的にとらえる工夫等が必要。
- \* 人生や社会の中の生活保障・障害年金・就労等の本来

《活発な質疑応答~「人生観が大事」など》

休憩時間に集約した質問メモ(当事者からが多い)に即して、講師は様々な具体的な質問に即座に的確に答えられ、会場からの意見表明もあり、予定30分の制約を超えて参加者と講師の熱した交流ができた。特に参加者から「精神障害者の医療補助が課題」「生きがいを持てる人生観が大事」の発言が心に残り、先生は当事者が親亡き後でもSOSを発信すること、知ることの大切さを強調され、私たちの未来が見えるだろうかと問いかけた。

28年12月17日「神戸新聞」からレイアウト加工して転載

**障害年金仕組み学ぶ**  
精神障害者 家族会が研修会  
三木の教育センター

精神障害者の障害年金について学ぶ研修会が16日、三木市福井の教育センターで開催された。北播磨と丹波地域の当事者や家族、支援者ら約80人を前に、日本福祉大(愛知県)の青木聖久教授(精神保健福祉士)が講演した。所得の減少を補う制度(大島光重)

兵庫県精神福祉家族会連合会が主催し、三木市の家族会「ほのぼのの会」が担当した。青木さんは、精神障害者の68%が年収100万円未満(生活保障費を除く)とする東京都の調査結果を紹介し、「働いて止まることとは限らない」と強調。都道府県が障害年金だが、受給できていない人が多いと解説した。障害年金の認定基準が止まるこの風評があるが、日常生活の状況が認定基準で、働いて止まるということはない」と強調。都道府県

「ことに不支給や支給停止の審査結果に違いがあったが、今年9月に客観的な国の指標(ガイドライン)が整備されたこと、今年9月に金を申請する際にはエピソードを書き記して(大島光重)

精神障害者の障害年金について講演する青木聖久さん。三木市立教育センター

◀ -1面からつづく- ▶

(当日後の質疑応答↓)

Q: <兵庫県だけ、なぜ障害年金の認定が厳しいのか、障害が重いにもかかわらず1年前年金カットされ経済的に困っている>

A: 検討会において「当面の間、支給停止を出さない」方向性が決まりました。従前と変わらないのに支給

《未来に向けて、今できることは？》

青木先生は、精神障害者支援の現場体験から社会人大学生、そして大学教員として精神障害者の生活支援の研究に取り組み、全国の講演に奔走、この地区で初めて上記研修会が持て、先生の当事者支援の優しさと情熱にふれて感激した。

【アンケート集計】 回答者46 (65%)

- ◆ 講演について …… **大変良かった 26 良かった 14**
- ◆ 障害年金について …… **現在受給している 24 受給していない 7**
- ◆ 障害年金の実態と将来 …… **大変不安 14 やや不安 14**
- ◆ 精神障害者の生活保障 …… (該当2つまで複数回答)
  - 多くの人が現在の実態を知るべき …… **24**
  - 福祉制度の進展に期待するしかない …… **20**
  - 国民がその充実に努力していく …… **8**
  - 途中障害の精神障害者固有の問題があり悩む …… **5**
- ◆ その他意見等(抜粋)
  - ・「大変参考、勉強になりました」「先生のお話は明快で非常に良かった」「質問に答えて頂け、ありがとうございました！」
  - ・「現在、障害基礎年金の申請を進めている方の背中を押すことができた」
  - ・「障害年金2級受給中ですが、老齢年金(62歳)に達した時どうなるのか？」
  - ・「将来、障害厚生年金はあがるのか？」
  - ・「障害者枠で就労しても、事業者側と当事者のマッチングが難しく、ジョブ

《希望をもって、つながりを！》

「老齢・障害・死亡の人生のリスクへの私保険と異なり、公的障害年金は国の作った社会保障制度である」から、税を負担する国民の合意が欠かせない。国民年金受給の認定での不公平な地域格差への批判の声に、去年から国は認定基準の見直しを実施した。一人ではできないことを、理不尽さの怒りの声のつながりが現実を少し変えた。私たちは人の輪を広げれば希望を持って前に進める！

例えばアンケート結果・意見などが示す厳しい課題山積。講師は「精神障害によって経済的困窮や孤立に陥り易い。これが問題」という。孤立して助けを求められない人が身近にいる。また、少子高齢化の日本、財政難から社会保障費削減の動き等、難しい問題だが、まずは今の社会と政治に関心を持ち続けたい。(17.1.16記)



【参加者】

80名 当事者 **17**  
 家族 **28**  
 支援者 **35**

遠くは丹波市、加西市、明石市等から参加者があった。

研修会参加者から感想

少し安心しました

長木義明

就労が難しい障がい者にとって年金は大変貴重なものです。受給していても、いつ切られるかと常に心配しています。青木先生の講演を聞いて少しですが安心いたしました。

当事者の生活は、内と外では全く違います。外ではシャキッとしますが、内では服薬のせいでもあるのですが、寝てばかりです。エピソードを記録して主治医に提出することが大事であるとのことのお話に、その通りだと思いました。

短い時間でしたのに年金についていろいろお話し頂き

年金と仲良く付き合うために

みによんちのあや

講演会など難しい話を聞くのは眠くなったりして苦手なのですが、今回の講演は大変興味深く聞かせて頂きました。

常態化している私の普段の症状を、ちゃんと文面で主治医に伝えようと思いました。

兵庫県の年金裁定が大変厳しいのも、こういう活動を通して緩和されたいいな、と思います。目に見えない精神の病気ですが、国や自治体からの援助を利用しながら、自分らしく生きていけたらと思います。

欠かせない障害年金

みによんち T.H.

私は以前、障害年金の支給停止を通告されました。主治医や家族から、一生働いてはいけないと言われていた中での支給停止で、大変混乱しました。不服申し立てをしても、働けないというだけでは理由にならないと棄却されました。

その後、なんとか支給再開をしてもらいましたが、年金があることで、経済的な安定が精神的な安定につながっていることを考えてほしいと思いました。

青木先生のお話を聞いて、色々なことが明確になり次回からの年金更新に大変参考になりました。

青木先生！ありがとうございました。

障害年金が支給停止に

北園 母

障害年金についての研修会に参加しまして深く感謝致します。当日の質問に、後日紙面にてお答え頂きありがとうございました。

兵庫県だけ、障害年金の認定が厳しいのですか。障害重いのにもかかわらず、1年前年金支給停止になり、親子で、すごいショックを受けて落ち込みました。青木先生のお答えに、又希望を持ちました。

再請求という方でチャレンジ、社会保険労務士と相談しながら取り組んでください、・・・。

生活が一ぺんに苦しくなり、国県、医師関係者の方々のお力を借りて、一日も早く年金受給を望んでいます。たくさんの方々も私と同じ状況にあると思います。

知ることは生きること

中井啓之

月刊「みんなねっと」で「知ることは生きること」を連載されている青木聖久先生のお話を直に拝聴できて、大変有意義な時間となりました。

テーマにあった「障害年金の現状と課題」について、とても分かりやすくお話して頂きました。それ以外にも精神障害者の地域生活を支える内発的要素「社会の自分に対する評価」や「自己有用感」の重要性も教えていただきました。

「今できることは精一杯する。後のことは社会にお任せする。そんな社会を目指していく。親亡き後を考えて不安になるが、日頃から困った時にSOSを出すこと。知ることによって未来は拓かれる。」等の言葉も強く

用語解説

エピソード【episode】

◆挿話、短くて興味ある話、逸話

◆発作・症状の発現

出来事(エピソード)の記憶(エピソード)記憶)

初めての病相をエピソードと呼ぶ

エピソードとは、ある時点での症状群

\* 編者の理解です。  
 .. (国語辞典など)  
 .. (医療用語辞典)

.. (精神保健福祉士養成テキスト)の記述から  
 \* 病状、精神症状の良くない具体的な状態

北部ブロック合同運動会

(犬飼恵美奈)

■28年10月28日(金) ■吉川総合公園体育館

北播磨の6施設が集う運動会は、事業所を超えた交流ができる場でもあり、6施設が持ち回り担当して毎年開催されている。今回は、やすらぎ工房が担当して盛況裡に開催された。(作業所時代の1回を含めて今回3回目の担当)

皆が楽しめるように職員・メンバーともに競技内容を考え、当日に備えました。

毎年恒例のパン釣り競争から始まり、増殖ムカデ競争、職員が玉入れの籠を背負い逃げまくる紅白玉入れ、4チームが十字に引っ張る綱引き、などバラエティーに富んだ競技で、皆盛り上がりました。当日は、三木市から副市長、障害福祉課長、三木市社協会長各位の参列を頂きました。また、多くのボランティアさんの協力もあって大イベントを催すことができました。



十字綱引き 勝負の判定は？

全面塗装工事終わる

(北上亜矢子)

1月中旬から、三木市の発注により工房建物外部の全面塗装工事がされていた。工事が終了し足場(一部)が外れると、温かみのあるオフホワイトのきれいな壁が現れました。入口扉や外部階段手摺等金属部分も塗装され見違えるようです。外階段(しかないが・・・)は防水樹脂材が踏面に貼られ、こちらも一新されました。(写真)

数年前から強雨の時は、あちこち酷い雨漏りで業務に支障を来たしており、施設所有者の市に相談お願いする中で、予算がついてこの度施工されました。



管球アンプ レコードコンサート

1月28日

(森本めぐみ)

離れて置かれた左右のスピーカーから、まるで生演奏かのような大音響で、尺八とラテン・バンドによる日本の抒情歌から、クラシック、POPなどまでバリエーションにとんだレコード音楽を鑑賞しました。終盤には演歌も・・・。

お正月には定番として流れている宮城道雄の「春の海」や、ヨーロッパのポピュラーソングであるポール・モーリアの「恋はみずいろ」、「エーゲ海の真珠」、「君に捧げるメロディー」などの名曲が作られた背景も学び、参加メンバー15名と職員4名はアーティストックなひと時を楽しみました。40年近く前に日崎職員が組立てた真空管アンプを中心としたオーディオシステムは、ラックを含むとその重量が72kg、スピーカー2台40kgと合わせると110kg超もの機器が出前されて新春レコードコン

